

1 平成29年7月22日～23日豪雨による被害状況(県管理河川)

表 浸水被害状況(氾濫発生26河川 うち非水位周知19河川と約7割)

種別	水位周知 7河川	非水位周知 19河川	非水位周知河川の上溝川の浸水戸数500戸超。24時間雨量300mm超。
全壊	0	3	
半壊	0	32	
床上	89	123	
床下	408	545	

※県管理河川は342河川、うち水位周知河川は30河川(洪水予報河川の太平洋を含む)

- ・局地的に大雨により、どこでも大規模な氾濫が発生する可能性がある

2 水位周知河川(30河川)の現状

水位周知河川: 氾濫した場合、浸水が想定される範囲内に家屋等が多く、著しい被害が想定される河川

- ・常時計測の水位計設置(約2千万円/1区間)
- ・どこから氾濫し、どの範囲まで浸水するか等を想定し、避難勧告等の目安となる避難判断水位、氾濫危険水位を設定(約1千5百万円/1区間)

- ・昨年7月豪雨時、水位周知河川は氾濫前に市町村へホットラインを実施
- ・非水位周知河川の氾濫発生危険度把握は困難(特に夜間)

非水位周知河川の避難勧告等のよりわかりやすい判断の目安が必要

3 非水位周知河川(312河川)における避難勧告等の判断の目安の検討

既存の情報

- 1) 気象情報やガイドラインの活用
 - ・流域雨量指数(気象庁防災情報提供システム)
 - ・洪水警報の危険度分布等(気象庁ホームページ)
 - ・避難勧告等に関するガイドライン②(発令基準・防災体制編)
- 2) 過去の浸水実績図等の活用
 - ・氾濫の始まった位置や浸水範囲の実績図
 - ・過去の経験等に基づく避難判断の目安となる水位の設定

新たな情報

- 1) 危機管理型水位計等の活用
 - ・危機管理型水位計による現況水位の把握(H31～)
 - ・避難判断水位、氾濫危険水位に準ずる水位の設定が課題

避難行動支援河川に位置づけホットラインやタイムラインに反映する